

<第9期介護保険事業計画「取組と目標」に関する自己評価シート>
(自立支援, 介護予防・重度化防止)

市町村名	瀬戸内町
------	------

取組目標・重点施策等		評価		
要介護認定の適正化		A		
1 第9期計画における具体的な取組 (第8期の課題を受けて第9期計画で設定した取組及びR5自己評価を踏まえて見直した取組)				
認定調査の内容について調査員間の相互確認や、判断が困難な事例の共有を行うことで、要介護認定の平準化を図ります。また、調査の質を確保するため、調査員研修への参加や、業務分析データによる全国と比較した分析結果の共有を行います。				
2 取組の数値目標及び実績 (R7年度末時点)				
項 目	数値目標	実績値		
		R 6	R 7	R 8
①適正化に向けた研修の開催及び審査会が抱える課題の研修内容の充実	①現任研修会 (年1回)	1	1	-
②審査会委員へメールやYoutubeでの情報共有	②必要時に随時	2	1	-
③	③			-
3 その他実績 (R7年度末時点) (2の数値目標の他に今回の自己評価に用いた取組とその実績)				
合議体の再編成を6ヶ月毎に行い、平準化に努めた。 認定調査では、審査会に提出前に各自で再チェック、判断に迷う項目について調査員間で相互確認することで、調査の平準化を図れた。業務分析データを活用し、調査員・認定事務と勉強会で共有できた。独自に作成している審査会進行マニュアルに留意点等を記載し、委員への周知を行った。				
4 取組と実績を踏まえた課題				
研修会をハイブリット形式で開催したが、参加者が20名程度で半分以下の参加だった。ハイブリット形式で模擬審査会を実施し、遠方の委員の参加ができ、委員同士の情報共有等のメリットは感じたが、参加できない委員も多くいたことが課題となった。				
5 課題を踏まえた今後の取組, 改善策 (R8年度)				
今までの研修会を参考に研修会の周知方法・開催方法の改善を行い、多くの審査員の参加を促す。また業務分析データを活用し、引き続き認定調査の平準化を図っていく。				